

たいゆうかわら版

発行 横手市大雄地域局

大雄地域課 ☎ 0182-52-2111 FAX 0182-52-3906
大雄市民サービス課 ☎ 0182-52-3905 FAX 0182-52-3925

石川県金沢市で災害派遣業務に従事

令和6年元日に発生した能登半島地震では、石川県輪島市などで震度7を観測。広範囲に津波や土砂災害、火災が発生し、家屋の倒壊も相次ぎ、多くの人が犠牲になるなど甚大な被害に見舞われました。

秋田県では国や石川県からの応援要請に基づき、1月10日から避難者の健康管理のために保健師を中心とする災害派遣チームを現地に派遣。3月5日から11日まで、秋田県チームの一員として大雄市民サービス課の佐藤朋美保健師が支援活動に携わってきました。

【佐藤保健師の活動報告】

私は金沢市の『いしかわ総合スポーツセンター』で、避難者の毎日の血圧・体温測定、健康相談などに従事しました。医師や看護師、リハビリや心のケア等を行う専門職と協力して支援を行いました。活動初日の3月5日、センター内に張られたテントには約100人が避難していて、多くが輪島市から来た高齢者で仮設住宅や介護施設への入居を待ち望んでいました。食事は三食とも温かい弁当で飲み物も十分に用意されていました。生活面では無料のバスで温泉に行くことができるほか、落語や紙芝居などのボランティア活動も行われていました。



佐藤保健師

避難していた80代の女性は「地震後、あっという間に隣の家族が家屋の下敷きになり、とても怖かった。見ず知らずの人が車に乗せてくれ、着の身着のまま避難してきた」と状況を話してくれました。震災から約2カ月が経過していましたが、高齢などで支援が必要な人が通常の暮らしを取り戻すまでには、まだ多くのハードルがあると実感しました。また心身のケアには、医師をはじめとする多くの職種の人々の協力が必要でした。

横手市でも、いつどのような災害が発生するかわかりません。今回の経験を生かし、保健師として災害時に的確に行動し、援助を必要とする人に寄り添っていきたくないと強く感じました。



保健師と専門職の打ち合わせ



プライバシーに配慮した屋内テント

